

# 市民文芸

## 短歌

令和五年度  
阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

### 阿南市長賞 特選

杵き日の給料袋のようだねと夫の通所の集金袋

棚野 久子

### 阿南市議会議長賞 特選

補聴器はわが放尿の音とらへ春の小川のごとく

森田 道子

### 阿南市教育長賞 特選

「練炭屋」「塗師屋」「麴屋」空き家みな昔の家

佐坂 恵子

### 互選賞二位 入選

今日落ちて輝く明日が来ればいい二合の酒にホ

小畑 定弘

### 互選賞二位 入選

百人の知己の応援ある如くバツハ聴く時力漲る

里和倭己子

### 特選

作業着を水に浸せば濁りたり今日の夫の野良仕

桑原 美枝

### 事見ゆ

河川敷降り来し雨が遅くても早くても君と出会

中山 善嗣

### えなかつた

0歳児小さき両の手玩具にし一人遊びす十人目

福崎 由美

### の孫

青もみじ添えた若あゆ愛でながら三姉妹の京の

森本 仁美

### 夜の膳

てふてふの恋は小刻み神経戦ジグザグ追いか

三谷 陽美

つかず離れず  
亡き夫に呼ばれてしばし立ちどまる死後の世界  
のあるとは思わず  
「医者もまた自問しつつに診ている」という短  
歌のあり少し安堵す

福島 朝代  
佐野 幸子

## 俳句

第五十二回  
阿南市文化祭誌上俳句大会選

### 市長賞

どの路地も下れば漁港鯛雲

車田マサ子

越して来し子らも誘ひて地蔵盆

田中 栄子

ちつぽけな悩みあずける鯛雲

前原 真理

リハビリの杖にやさしき萩の道

神野千鶴子

震災忌海より雲の生まれ出づ

山田 百代

霧走るダム放流の赤ランプ

中富はるか

進歩するじじばばの絵や敬老日

張本 雅宣

新米や宅急便の母の文字

青木 慧

夕暮れて季節の移りを虫に聴く

表原 清美

水に落つ葉に落つ秋の雨を聴く

西崎 鈴子

小島へゆく船に積み込む今年米

北島美智子

稲刈の音のまだする日暮かな

喜來富士子

二才児のはじけて跳んで鳳仙花

宮崎三千代

名月や百寿の母の大欠伸

庄野 早苗

疲れるとつい多くなる母の愚痴

市原 央紀

次の世も再び君のそばに居る

近藤 大地

バンザイの曾孫未来は君のもの

篠原 良子

友見舞う顔色ほめて帰途につく

鈴木レイ子

AIが大きく変える理想像

野村 敏子

何取りに後ろ振り向き思い出す

持木 寿栄

障子張る母の動きに無駄がない

若木アヤ子

一般応募

渡邊 浪漫

留守電へ声にも少し化粧する

島尾美津子

大根の主役譲らぬおでん鍋

泰地 重美

ナンプレが私の遊び相手する

武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

### 新年の詩

瑞氣氤氳入草堂

東風旗影漲春光

當知萬物無停滯

辰歲年頭戒怠荒

原 美智子

瑞氣氤氳として 草堂に入り

東風の旗影 春光漲る

当に知るべし 万物停滯無きを

辰歳の年頭 怠荒を戒む

池田 行子

何來八十四齡春

髮背東風霜色新

林下草堂宜送老

鳥飛蝶舞似花茵

池田 行子

### 平島公方月峯の国に帰るを送る

阿州積虜返朝鮮

公昵月峯風雅縁

知音惜別同船送

絶唱肥前覽簡篇

松原 伸夫

阿州 虜を釈いて朝鮮に返す

公 月峯に昵むは風雅の縁

知音別れを惜んで同船して送る

絶唱の肥前 簡篇に覽る

松原 伸夫

阿州 虜を釈いて朝鮮に返す

公 月峯に昵むは風雅の縁

知音別れを惜んで同船して送る

絶唱の肥前 簡篇に覽る

松原 伸夫

阿州 虜を釈いて朝鮮に返す

公 月峯に昵むは風雅の縁

知音別れを惜んで同船して送る

絶唱の肥前 簡篇に覽る

松原 伸夫

※公方―月峯の詩には又八郎とあるが三代義種の誤りと思われる  
※月峯―朝鮮の役、阿波藩の捕虜

